



Release

フランクフルト・アム・マイン

2025 年 10 月 29 日

ドイツ銀行、2025 年年初からの 9 カ月間において過去最高の税引前利益 77 億ユーロを計上

2025 年年初からの 9 カ月間の税引前利益は、2024 年年初からの 9 カ月間から 64%増加して 77 億ユーロ、ポストバンク訴訟の影響を調整した場合は 36%の増加

- 純利益は 76%増加して 56 億ユーロ
- 全 4 事業部門で前年同期から 2 桁の利益成長を達成し、税引後平均有形株主資本利益率 (RoTE¹) は 10%超

2025 年通年の目標に沿った、2025 年年初からの 9 カ月間の主要財務比率

- RoTE¹ は、10%超という 2025 年の目標に沿った 10.9%
- 費用収益比率は、65%未満という 2025 年の目標に沿った 63.0%

2025 年年初からの 9 カ月間の収益の成長は通年の目標達成を後押し

- 純収益は、前年同期から 7%増加し、約 320 億ユーロという通年目標に沿った 244 億ユーロ
- 純資金流入は、プライベート・バンクおよびアセット・マネジメント全体で 660 億ユーロ

2025 年年初からの 9 カ月間のコストは、営業関連以外のコストの減少を反映して 2025 年のガイダンスと一致

- 利息以外の費用は、前年同期から 8%減少して 154 億ユーロ
- 調整済コスト¹は前年同期から横ばいの 152 億ユーロ

強固な資本創出が成長と株主還元を後押し

- 普通株式等 Tier1 (CET1) 資本比率は 14.5%に上昇。2025 年第 2 四半期は 14.2%、前年同四半期は 13.8%
- 2025 年の資本分配は、2 回目の自社株の買戻しプログラムの完了後、2024 年比で約 50%増加して 23 億ユーロ
- 2025 年年初からの 9 カ月間の信用損失引当金は、前年同期から 7%減少して 13 億ユーロ

2025 年第 3 四半期の税引前利益は、過去最高の 24 億ユーロで、前年同四半期から 8%増。前年同四半期におけるポストバンク訴訟引当金の戻入れを調整した場合には 34%の増加

- 純利益は、9%増加して 18 億ユーロ
- RoTE¹ は 10.7%、費用収益比率は 64.4%
- 純収益は、前年同四半期から 7%増加して 80 億ユーロ
- 利息以外の費用は、前年同四半期におけるポストバンク訴訟引当金の戻入れが再発しなかったことを反映し、前年同四半期から 9%増加して 52 億ユーロ
- 調整済コストは、前年同四半期から横ばいの 50 億ユーロ
- 信用損失引当金は、前年同四半期から 16%減少して 417 百万ユーロ

「ドイツ銀行は 2025 年第 3 四半期および 2025 年年初からの 9 カ月間においても過去最高益を達成し、変化の激しい環境下においてもクライアントと株主の皆さまにグローバル・ハウスバンクとしての価値をご提供し続けていることを示しました。」と、チーフ・エグゼクティブ・オフィサーのクリスティアン・ゼーヴィングは述べています。「当行は 2025 年の財務目標の達成に向け順調に推移しており、過去 3 年間で株主還元を毎年 50%増加させたことで 2022 年から 2026 年にかけて総額 80 億ユーロ超

を株主に還元できる見通しです。私たちは、次の戦略フェーズに向けた確固たる基盤を築くことができました。」

ドイツ銀行（銘柄コード XETRA:DBGn.DB/NYSE:DB）は、本日、2025年年初からの9カ月間の税引前利益が77億ユーロとなり、2024年年初からの9カ月間から64%増加したと発表しました。両期間におけるポストバンク買収訴訟引当金の影響を調整した場合、税引前利益は前年同期から36%増加しました。この度の利益成長は、収益が前年同期から7%増加したことに加え、主に前述のポストバンク訴訟の影響が再発しなかったことによる営業関連以外の費用の大幅な減少に牽引され、利息以外の費用が前年同期から8%減少したことを反映しています。営業関連以外の項目を除く調整済コストは、コストガイダンスに沿ってほぼ横ばいの152億ユーロでした。2025年年初からの9カ月間の純収益は、244億ユーロで、2025年通年のガイダンスの約320億ユーロと一致し、2025年年初からの9カ月間の利息以外の費用の154億ユーロもまた、通年のガイダンスの約208億ユーロと一致しました。

ドイツ銀行の目標財務比率は、2024年年初からの9カ月間から著しく改善し、2025年の目標に沿うものとなりました。税引後平均有形株主資本利益率（RoTE）¹は、前年同期の6.0%から上昇して10.9%となり、10%超という当行の2025年の目標に沿うものとなりました。税引後平均株主資本利益率（RoE）¹は、前年同期の5.4%から上昇して9.8%となりました。費用収益比率は、前年同期の73.2%から低下して63.0%に改善し、65%未満という当行の2025年通年目標に沿うものとなりました。2025年年初からの9カ月間の希薄化後1株当たり収益は、前年同期の1.22ユーロの2倍近い2.35ユーロとなりました。

全4事業部門にわたり2桁の利益成長および10%を超えるRoTE¹

2025年年初からの9カ月間において、ドイツ銀行の各事業部門は、当行グループの収益性および目標比率に、以下のとおり貢献しました。

- **コーポレート・バンク**：税引前利益は、前年同期から16%増加の20億ユーロとなりました。RoTE¹は16.0%、RoE¹は14.7%、費用収益比率は62%となりました。
- **インベストメント・バンク**：税引前利益は、前年同期から18%増加の33億ユーロとなりました。RoTE¹は12.5%、RoE¹は12.0%、費用収益比率は55%となりました。
- **プライベート・バンク**：税引前利益は、前年同期から71%増加の18億ユーロとなりました。RoTE¹は10.5%、RoE¹は10.2%（2025年第3四半期に記録した12.6%の四半期RoTE¹を含みます。）、費用収益比率は70%となりました。
- **アセット・マネジメント**：税引前利益は、前年同期から48%増加の666百万ユーロとなりました。RoTE¹は25.4%、RoE¹は11.4%、費用収益比率は61%となりました。

2025年第3四半期において、税引前利益は、2024年第3四半期から8%増加して第3四半期として最高の24億ユーロとなりました。前年同四半期のポストバンク関連の訴訟引当金の一部戻入れによる約440百万ユーロのプラスの影響を除くと、税引前利益は、前年同四半期から34%増加しました。この推移は、以下を反映しています。

- **純収益**は、前年同四半期から7%増加して80億ユーロとなりました。
- **利息以外の費用**は、前年同四半期から9%増加して52億ユーロとなりました。これは、前年同四半期の営業関連以外のコストにプラスの影響を与えたポストバンク関連引当金の戻入れが再発しなかったことを反映しています。
- **調整済コスト**（訴訟およびその他の営業関連以外の項目を除きます。）は、前年同四半期から横ばいの50億ユーロとなりました。

- **信用損失引当金**は、前年同四半期から16%減少して417百万ユーロとなりました。

2025年第3四半期の**税引前利益**は、前年同四半期から9%増加して18億ユーロとなりました。当行の主要財務比率は、税引後RoTE¹が10.7%、RoE¹が9.6%、費用収益比率が64.4%となり、いずれも2025年の目標に沿うものとなりました。

チーフ・ファイナンシャル・オフィサーのジェームス・フォン・モルトケは、次のように付け加えました。「多様化された当行の事業部門の収益モメンタムと、継続的なコスト管理により、自己資本の有機的な成長力は堅調であり、これまで2025年の3四半期すべてにおいて有形株主資本利益率10%超を達成しています。全4事業部門が戦略的計画を進展させているところであり、今年も広範な実行マイルストーン達成と管理態勢の向上を成功裏に継続しました。」

グローバル・ハウスバンク戦略の継続的な実行

ドイツ銀行は、2025年年初からの9カ月間もグローバル・ハウスバンク戦略のあらゆる面での実行を加速し続けました。進展には、以下が含まれます。

- **収益の伸び率**：2021年以降、過去12カ月間の当行の複合年平均収益の伸び率は、2025年第3四半期末現在で6.0%となり、引き上げられた当行の目標範囲である5.5%から6.5%の間水準でした。プライベート・バンクおよびアセット・マネジメント全体での運用資産は、過去12カ月間に1,400億ユーロ増加しました。これは一部、2025年年初からの9カ月間における660億ユーロの純資金流入によるものです。
- **業務効率**：ドイツ銀行は、2025年第3四半期において、25億ユーロの業務効率化プログラムの完了に向けてさらなる進捗を遂げました。かかる施策には、ドイツにおける当行のプラットフォームの最適化および特に顧客対応以外の業務における従業員削減が含まれます。2025年第3四半期末現在、効率化施策の完了により実現した、または見込まれる費用削減は累計24億ユーロに達し、これはプログラム全体の削減目標額の約95%に相当します。これには、既に報告したこれまでの期間における再編、その他の従業員削減策、採用規律および社内異動による今日までの実現済みコスト削減額約23億ユーロが含まれています。
- **資本効率**：資本効率化施策による累積RWA削減効果は、2025年第2四半期末までで既に300億ユーロに達しており、2025年末目標の範囲である250億ユーロから300億ユーロの最高水準となりました。当行は、2025年第4四半期においても、さらなるRWA削減機会を追及し続けます。

収益：前年同期比7%の成長、2025年の目標に沿った収益を達成

2025年第3四半期および2025年年初からの9カ月間ともに、当行グループの収益は7%成長しました。当行の各事業部門における収益の推移は、以下のとおりです。

コーポレート・バンク：

- **2025年第3四半期の純収益**は、前年同四半期から1%減少して18億ユーロでした。これは純手数料およびフィー収益の増加をマージンの正常化および為替レートの変動が上回ったためです。コーポレート・トレジャリー・サービスの収益は、前年同四半期から2%増加して10億ユーロでした。これは金利ヘッジ、取引高の増加ならびに純手数料およびフィー収益の増加が預金マージンの低下を一部相殺したことによります。機関投資家向けサービスの収益は、前年同四半期から5%減少して462百万ユーロでした。これは機関投資家向けキャッシュ・マネジメントにおける預金高の減少および預金マージンの低下によるものです。ビジネス・バンキングの収益は、継続的な預金マージンの正常化により、前年同四半期から8%減少して308百万ユーロとなりました。「2025年ファイナンス・バンケン・サーベイ」において、ドイツ銀行は「ベスト・トレード・ファイナンス・バンク」に選出されました。

- **2025 年年初からの 9 カ月間の純収益**は、前年同期から 1%減少して 56 億ユーロとなりました。コーポレート・トレジャリー・サービスの収益は前年同期から 1%増加して 32 億ユーロとなりましたが、機関投資家向けサービスの収益は 1%減少して 15 億ユーロ、またビジネス・バンキングの収益は 8%減少して 945 百万ユーロとなりました。

インベストメント・バンク：

- **2025 年第 3 四半期の純収益**は、2024 年第 3 四半期から 18%増加して 30 億ユーロでした。これは債券および為替 (FIC) の好調な当四半期業績とオリジネーションおよびアドバイザリー (O&A) の業績が改善したことによるものです。FIC の収益は、事業部門全体での幅広い成長に牽引され、19%増加して 25 億ユーロとなりました。資金調達業務を除く FIC の収益は、好調な市場活動を受けた金利および為替取引ならびにクレジット・トレーディングの成長により、21%増加して 16 億ユーロとなりました。2025 年第 3 四半期中に、本年のユーロマネーの「FX アワード」において、ドイツ銀行は「ワールド・ベスト FX バンク」に選出されました。資金調達業務の収益は、純利息収益の増加および好調な取引の実行を反映し、前年同四半期から 14%増加して 870 百万ユーロとなりました。O&A の収益は、前年同四半期から 27%改善して 502 百万ユーロとなりました。これは 2025 年第 2 四半期以降のレバレッジド・ファイナンス市場の回復を一部反映した債券オリジネーションの収益の 34%の増加に牽引されたことによるものです。アドバイザリーの収益はほぼ横ばいであった一方、株式オリジネーションは 57%増加しました。
- **2025 年年初からの 9 カ月間の純収益**は、前年同期から 11%増加して 90 億ユーロとなりました。FIC の収益は前年同期から 15%増加して 76 億ユーロとなった一方、O&A の収益は 7%減少して 14 億ユーロとなりました。

プライベート・バンク：

- **2025 年第 3 四半期の純収益**は、前年同四半期から 4%増加して 24 億ユーロでした。純利息収益は 9%増加して 16 億ユーロとなり、純手数料およびフィー収益は前年同四半期からほぼ横ばいの 725 百万ユーロでした。パーソナル・バンキングの収益は、前年同四半期から 4%増加して 13 億ユーロとなりました。これは投資商品収益および預金収益の成長によるものです。ウェルス・マネジメントおよびプライベート・バンキングの収益も、主に投資商品収益の成長により、前年同四半期から 4%増加して 11 億ユーロとなりました。**運用資産**は、130 億ユーロの純資金流入および 160 億ユーロのプラスの市場動向を反映し、6,750 億ユーロでした。
- **2025 年年初からの 9 カ月間の純収益**は、前年同期から 3%増加して 72 億ユーロでした。パーソナル・バンキングの収益は前年同期から 1%増加して 39 億ユーロとなった一方、ウェルス・マネジメントおよびプライベート・バンキングの収益は 5%増加して 33 億ユーロとなりました。**運用資産**は 6,750 億ユーロとなり、主に 250 億ユーロの純資金流入により、2025 年年初からの 9 カ月間において 400 億ユーロ増加しました。

アセット・マネジメント：

- **2025 年第 3 四半期の純収益**は、前年同四半期から 11%増加し、734 百万ユーロとなりました。マネジメント・フィーは、主にパッシブ商品における平均運用資産の増加を反映して、5%増加し 655 百万ユーロとなりました。運用報酬および取引手数料は、主にオルタナティブ・インフラストラクチャーからの運用報酬および不動産取引のフィーの増加によって大幅に増加し 50 百万ユーロとなり、その他の収益は、前年同四半期をわずかに上回り、29 百万ユーロとなりました。2025 年第 3 四半期末現在の**運用資産**は 1 兆 540 億ユーロで、2025 年第 2 四半期から 440 億ユーロの増加、2024 年第 3 四半期末から 910 億ユーロの増加となりました。これは好調な市場のパフォーマンスおよび主に戦略に沿ったパッシブ商品へのさらなる 100 億ユーロ

ロの資金流入を主因とする、2025年第3四半期の純資金流入額120億ユーロによるものです。

- **2025年年初からの9カ月間の純収益**は、前年同期から13%増加し、22億ユーロとなりました。これは、マネジメント・フィーが5%増加して19億ユーロとなり、運用報酬および取引手数料が3倍増加して145百万ユーロとなり、その他の収益が74%増加して120百万ユーロとなったことを反映しています。**運用資産**は1兆540億ユーロで、これは主に400億ユーロの純資金流入に牽引され、2025年年初からの9カ月間に430億ユーロ増加しました。

コストは2025年通年見通しに合致、営業関連以外のコストは正常化

2025年年初からの9カ月間の**利息以外の費用**は、前年同期から8%減少し、154億ユーロとなり、約208億ユーロの当行の2025年通年の見通しに沿った水準となりました。前年同期比での動向には、予想どおり営業関連以外のコストの大幅な減少が含まれますが、これは主に前年同期のポストバンク関連訴訟引当金の再発がなかったことを反映しています。

2025年年初からの9カ月間の**営業関連以外のコスト**は194百万ユーロで、前年同期から88%の減少となり、これは、前年同期にはポストバンク関連の訴訟に対する純引当金約900百万ユーロが含まれていたためです。一方、2025年年初からの9カ月間の営業関連以外のコストは、ポストバンク関連の引当金の戻入れによって恩恵を受けました。2025年年初からの9カ月間の再編および退職費用は166百万ユーロで、前年同期から32%減少しました。

2025年年初からの9カ月間の**調整済コスト**¹は、前年同期から変動なく、ガイダンスに沿った水準で、152億ユーロとなりました。2025年第3四半期末現在、**従業員（常勤相当）**は90,330名で、2024年年初からの9カ月間からほぼ横ばいであり、2025年第2四半期末現在の89,426名からは増加しました。2025年第3四半期の増加には、7月に当行に入行した889名の新卒者が含まれています。

2025年第3四半期の利息以外の費用は、前年同四半期から9%増加して52億ユーロとなりました。この増加は主に、前年同四半期の前述のポストバンク訴訟引当金の戻入れが再発しなかったことを反映しています。調整済コストは、四半期ガイダンスに沿った水準で、前年同四半期から変動なく、50億ユーロとなりました。

信用損失引当金は、マクロ経済の不確実性を反映

2025年第3四半期の**信用損失引当金**は、417百万ユーロ（貸出平均残高の35ベースポイント）で、前年同四半期から16%減少し、2025年第2四半期と比較して1%減少しました。不良債権（ステージ3）に対する引当金は357百万ユーロで、2025年第2四半期の300百万ユーロから増加しました。これは主に2025年第2四半期にモデル更新が生じなかったことが主な要因ですが、前年同四半期の482百万ユーロから26%減少しました。正常債権（ステージ1およびステージ2）に対する引当金は60百万ユーロで、2025年第2四半期の123百万ユーロから減少しましたが、モデル更新を主に反映して、引き続き前年同四半期よりは依然として大幅に高い水準を維持しました。

2025年年初からの9カ月間の信用損失引当金は、13億ユーロ（貸出平均残高の37ベースポイント）で、前年同期から7%減少しました。不良債権（ステージ3）に対する引当金は、前年同期の14億ユーロから28%減少し、10億ユーロとなりましたが、正常債権（ステージ1およびステージ2）に対する引当金は、313百万ユーロで、モデル更新およびマクロ経済的環境の変化を反映し、前年同期を大幅に上回りました。当行はガイダンスに沿って、2025年下半期の信用損失引当金が2025年上半年から減少することを見込んでいます。

堅調な自己資本比率が株主への配当および事業成長を後押し

2025年第3四半期末現在の**普通株式等Tier1（GET1）資本比率**は14.5%となり、2025年第2四半期末現在の14.2%から上昇しました。2025年第2四半期からの推移は、その他Tier1資本証券（AT1証券）

のクーポン、配当および自社株の買戻しによる控除後の留保利益を通じた、堅調な有機的な自己資本の創出を反映しています。

当行は、最近、2025年9月17日に開始された250百万ユーロの自社株の買戻しプログラムが完了したと発表しました。これにより既に完了している2025年4月に開始された750百万ユーロの自社株の買戻しプログラムと合わせて、年内で自社株の買戻し合計は10億ユーロに達しました。2025年5月に支払われた2024年の配当を含む2025年の資本分配合計は23億ユーロに達し2024年比で約50%増加しました。

レバレッジ比率は、2025年第3四半期末現在で4.6%となり、2025年第2四半期末現在の4.7%からわずかに低下しました。自己資本の創出によるプラスの影響は、2025年9月に発表済の12.5億ドルのAT1証券の償還により大幅に相殺されました。**レバレッジ・エクスポージャー**は、2025年第3四半期末現在で1兆3,000億ユーロとなり、2025年第2四半期末現在の1兆2,760億ユーロおよび前年同四半期末現在の1兆2,840億ユーロから増加しました。

2025年第3四半期末現在の**流動性カバレッジ比率**は、2025年第2四半期末現在の136%から上昇して140%となり、規制要件である100%を上回り、余剰額は670億ユーロとなりました。2025年第3四半期末現在の質の高い流動性資産は2,340億ユーロで、2025年第2四半期末現在の2,320億ユーロから増加しました。安定調達比率は119%となり、2025年第2四半期末現在からわずかに低下しましたが、当行の目標範囲である115%から120%の範囲内にあり、余剰額は1,010億ユーロとなりました。

2025年第3四半期の**顧客預金**は、6,630億ユーロとなり、2025年第2四半期の6,530億ユーロ、2024年第3四半期の6,500億ユーロに対し増加しました。

サステナブル・ファイナンス：2020年以降の取引高²は4,400億ユーロに到達

2025年第3四半期の**サステナブル・ファイナンスおよびESG投資の取引高(DWSを除きます。)**²は230億ユーロでした。これにより、2020年1月1日以降の累積取引高は4,400億ユーロとなり、2025年第2四半期末現在の4,170億ユーロから増加しました。

2025年第3四半期におけるドイツ銀行の各事業部門は、以下のとおり貢献しました。

- **コーポレート・バンク**：サステナブル・ファイナンスの取引高は30億ユーロとなり、2020年1月1日以降のコーポレート・バンクの累積取引高を840億ユーロに引き上げました。
- **インベストメント・バンク**：180億ユーロのサステナブル・ファイナンス、サステナブル関連資本市場発行およびマーケット・メイキングにより、2020年1月1日以降の累積取引高は2,710億ユーロとなりました。
- **プライベート・バンク**：運用中のESG資産および、新規顧客向け融資で20億ユーロの成長を達成し、2020年1月1日以降の累積取引高は760億ユーロとなりました。

2025年第3四半期における主な取引は、以下のとおりです。

- バッテリーエネルギー貯蔵システム(BESS)プロジェクトを世界的に支援しました。これには、年間785,000世帯分の電力を供給するフィドラ・エナジー社の英国拠点BESSへの594百万英ポンドの融資および、アケイシャ・エナジー社への300百万豪ドルの複数通貨建て融資が含まれ、これによりオーストラリア、米国、日本およびドイツにおけるBESS開発を可能にしました。
- スウェーデンのデジタル・インフラ事業会社であるEcoDataCenterへ提供する600百万ユーロのシニア担保付融資について、単独主幹事および引受を務めました。当該資金は、ファールンおよびボーレンゲのデータセンターの拡大を促進し、継続的な成長および発展を支援しま

す。EcoDataCenter は 2024 年 8 月に EcoVadis のプラチナ評価を獲得しました。これは世界の企業の上位 1%に含まれることを意味し、サステナビリティへの取組みを示しています。

- カイシャ・ゲラル・デ・デポジットスの 500 百万ユーロの上位優先グリーンノート発行の共同主幹事を務めました。当該発行からの取得資金は、国際資本市場協会 (ICMA) の原則に準拠するサステナブル・ファンディング・フレームワークに基づく適格グリーン・プロジェクトの借換えに充てられます。このフレームワークにおいて、ドイツ銀行は単独 ESG ストラクチャリング・コーディネーターを務めました。

2025 年第 3 四半期において、ドイツ銀行は ESG 格付の大幅な改善を達成しました。当行の S&P コーポレート・サステナビリティ評価 (CSA) スコアは 100 点満点中 67 点から 72 点に上昇し、サステナビリティの ESG リスク格付スコアは 24.8 から 9.0 に改善しました。当行は、ドイツおよびインドにおける「コーポレート・レスポンスビリティ最優秀銀行」ならびに「アジアのダイバーシティ&インクルージョン最優秀銀行」を含む、ユーロマネーの「アワード・フォー・エクセレンス」の 11 の賞を受賞しました。

グループ業績概要

特に表示がない限り 単位:百万ユーロ	2025 年 9 月 30 日に 終了した 3 カ月間	2024 年 9 月 30 日に 終了した 3 カ月間	変動額	増減 (%)	2025 年 9 月 30 日に 終了した 9 カ月間	2024 年 9 月 30 日に 終了した 9 カ月間	変動額	増減 (%)
純収益合計:	8,043	7,501	541	7	24,370	22,869	1,501	7
内:								
コーポレート・バンク	1,816	1,842	(26)	(1)	5,578	5,642	(63)	(1)
インベストメント・バンク	2,978	2,523	455	18	9,027	8,168	859	11
プライベート・バンク	2,415	2,319	96	4	7,225	7,027	198	3
アセット・マネジメント	734	660	74	11	2,189	1,940	248	13
コーポレートおよびその他	99	157	(58)	(37)	351	92	259	N/M
信用損失引当金	417	494	(77)	(16)	1,312	1,410	(98)	(7)
利息以外の費用	5,180	4,744	435	9	15,355	16,751	(1,396)	(8)
税引前利益(損失)	2,445	2,262	183	8	7,704	4,709	2,995	64
利益(損失)	1,819	1,665	154	9	5,565	3,168	2,397	76
ドイツ銀行株主に帰属する利益(損失)	1,564	1,461	103	7	4,824	2,593	2,231	86
普通株式等 Tier1 資本比率 ³	14.5%	13.8%	0.7ppt	N/M	14.5%	13.8%	0.7ppt	N/M
レバレッジ比率 ³	4.6%	4.6%	0.0ppt	N/M	4.6%	4.6%	0.0ppt	N/M

N/M: 意味のある比較不能

過去年のセグメント情報は、現在のセグメント区分に合わせて表示されています。

1 本項目およびその他の GAAP 以外の財務的測定尺度の詳細については、2025 年第 3 四半期補足財務データ (英文) の 15 頁から 21 頁の「GAAP 以外の財務的測定尺度」および 2025 年 9 月 30 日に終了した期間に関する収益報告書 (英文) の 57 頁から 62 頁の「GAAP 以外の財務的測定尺度」をそれぞれご参照ください。

2 コーポレート・バンク、インベストメント・バンク、プライベート・バンクおよびアセット・マネジメント

3 期末現在

ESG 分類

ドイツ銀行は、サステナブル関連ファイナンスおよび ESG 投資の取引を「Sustainable Finance Framework (サステナブル・ファイナンスのフレームワーク) (英文) および「Deutsche Bank ESG Investments Framework (ドイツ銀行の ESG 投資のフレームワーク) (英文) (https://investor-relations.db.com から入手可能です。) において定義しました。当行の目標における累積の定義に鑑みて、フレームワークに照らした検証が報告する四半期末までに完了できない場合には、取引高は翌四半期以降において検証が完了次第報告されます。アセット・マネジメントにおける DWS の ESG 商品分類の詳細については、DWS の 2024 年の年次報告書 (英文) の「Summarised Management Report - Sustainability Statement - General Information - Sustainability in Our Product Suite and Investment Approach (マネジメント・レポートの要約 - サステナビリティ・ステートメント - 概要 - 当社の商品および投資アプローチにおける持続可能性)」をご参照ください。

ドイツ銀行の事業の 2025 年第 3 四半期の業績の詳細は、2025 年 9 月 30 日に終了した期間に関する収益報告書 (英文) により入手可能です。

ドイツ銀行について

ドイツ銀行は、個人顧客、中小企業、事業法人、各国政府および機関投資家に対し、リテール・バンキング、プライベート・バンキング、コーポレート・バンキング、トランザクション・バンキング、融資、資産運用の商品およびサービスならびに焦点を絞った投資銀行業務を提供しています。ドイツ銀行は、欧州に深く根ざしつつグローバル・ネットワークを有するドイツ有数の銀行です。

将来の事象に関する記述

本リリースには、将来の事象に関する記述が含まれています。将来の事象に関する記述とは、歴史的事実ではない記述であり、当行の考えおよび予想ならびにその基礎となる前提が含まれます。これらの記述は、ドイツ銀行の経営陣が現在入手可能な予定、推定および計画に基づいています。したがって、将来の事象に関する記述は、あくまで当該記述がなされた日現在のものであって、当行はこれらの記述に関して、新しい情報または将来生じた事象があっても、これを更新して公表する責任は負いません。

将来の事象に関する記述は、その性質上リスクおよび不確実性を含みます。したがって、いくつかの重要な要因が作用して、実際には将来の事象に関する記述に含まれるものとは大きく異なる結果となる可能性があります。

これらの要因には、ドイツ、ヨーロッパ、米国およびドイツ銀行が収益の相当部分を上げ、資産の相当部分を有するその他の地域における金融市場の動向、資産価値の推移および市場のボラティリティ、借り手または取引相手による将来の債務不履行、当行の経営戦略の実施、当行のリスク・マネジメントの方針、手続および方法への信頼性ならびに米国証券取引委員会（SEC）への情報開示に関連するリスク等が含まれます。このような要因については、SECに提出した当行の2025年3月13日付Form 20-Fの「リスク・ファクター」の表題のもとで詳しく記載されています。当該文書の写しは、請求により入手可能であり、また www.db.com/ir からダウンロードすることができます。

会計の基準

上記の当行の業績は、国際会計基準審議会（IASB）により発行され、欧州連合（EU）が支持している国際財務報告基準（IFRS）に準拠して作成されています。これには、満期到来前の預金に対するポートフォリオ公正価値ヘッジ会計および期限前弁済条項付固定金利モーゲージの適用（以下「EUカーブアウト」といいます。）が含まれます。EUカーブアウトに基づく公正価値ヘッジ会計は、各テナーのプールにおける金利のプラス・マイナス両方の動きに対する会計エクスポージャーを最小限に抑えることで、トレジャリーの活動により報告される収益のボラティリティを削減するために用いられます。

2025年9月30日に終了した3カ月間について、EUカーブアウトの適用は、当行の税引前利益に343百万ユーロ、利益に120百万ユーロのプラスの影響をもたらしました。2024年9月30日に終了した3カ月間について、EUカーブアウトの適用は、当行の税引前利益に20億ユーロ、利益に14億ユーロのマイナスの影響をもたらしました。2025年9月30日に終了した9カ月間について、EUカーブアウトの適用は、当行の税引前利益に199百万ユーロ、利益に17百万ユーロのプラスの影響をもたらしました。2024年9月30日に終了した9カ月間について、EUカーブアウトの適用は、当行の税引前利益に13億ユーロ、利益に915百万ユーロのマイナスの影響をもたらしました。当行グループの規制自己資本およびその比率についても、EUカーブアウトを伴うIAS第39号を用いて報告しています。2024年9月30日現在については、EUカーブアウトの適用は、CET1資本比率に約68ベースポイントのマイナスの影響をもたらしたのに対し、2025年9月30日現在については、約71ベースポイントのマイナスの影響をもたらしました。いずれの期においても、EUカーブアウトの正味の影響は、ヘッジ対象のポジションの時価評価の変動およびヘッジ手段によって、プラスにもマイナスにもなる可能性があります。

GAAP以外の財務的測定尺度の使用について

本リリース、および当行が発行しているまたは発行する可能性があるその他の書面には、GAAP以外の財務的測定尺度が含まれています。GAAP以外の財務的測定尺度とは、当行の過去もしくは将来の経営成績、財政状態またはキャッシュ・フローの尺度で、当行の財務諸表においてIFRSに従って計算および表示された最も直接的に比較可能な尺度から、場合により、これに含められている（または除外されている）金額を除外する（または含める）調整を行うものです。当行のGAAP以外の財務的測定尺度およびこれと最も直接的に比較可能なIFRSの財務的測定尺度の例は、以下をご参照ください。

GAAP以外の財務的測定尺度	最も直接的に比較可能なIFRSの財務的測定尺度
ポストバンク買収訴訟引当金を除く税引前利益（損失）	税引前利益（損失）
各部門におけるドイツ銀行株主に帰属する利益（損失）、各部門におけるドイツ銀行株主およびその他の資本構成要素に帰属する利益（損失）	利益（損失）
主要な銀行業務セグメントの純利息収益	純利息収益
通貨換算の影響を調整したベースでの収益	純収益
調整済コスト、通貨換算の影響を調整したベースでのコスト、営業関連以外のコスト	利息以外の費用
純資産（調整済）	資産合計
有形株主資本、平均有形株主資本、有形帳簿価額、平均有形帳簿価額	株主資本合計（帳簿価額）
税引後平均株主資本利益率（AT1証券のクーポン控除後のドイツ銀行株主に帰属する利益（損失）に基づく）、税引後平均有形株主資本利益率（AT1証券のクーポン控除後のドイツ銀行株主に帰属する利益（損失）に基づく）	税引後平均株主資本利益率
基本的流通株式1株当たり有形純資産、基本的流通株式1株当たり資産	流通株式1株当たり資産

通貨換算の影響を調整したベースでの収益およびコストは、ユーロ以外の通貨建てで発生または被った過去の会計期間の収益およびコストを、当該会計期間における外国為替レートによりユーロに換算することで計算します。これらの調整済の数値およびそれに基づく過去の会計期間との比較によるパーセンテージの変化は、基礎となる取引高の状況についての情報を提供することを意図しています。

調整済コストは、IFRSに基づく利息以外の費用から、(i)のれんおよびその他の無形資産の減損、(ii)正味の訴訟費用ならびに(iii)再編および退職費用(併せて**営業関連以外のコスト**と総称します。)を控除して計算されます。